

水族館
こぼれ話

タチウオ展示への挑戦！（前編）

水族館では、テーマに沿った環境と生物の多様性を展示することも大切にしている活動です。碧南海浜水族館では、三河地方沿岸に生息する水生生物と全国各地の特色ある環境の生物をご覧いただいておりますが、タチウオは、魚屋でもおなじみで誰もが知っている魚でありながら、生きている姿を観る機会はなかなかありません。それは、体表に触れるだけで擦過傷を生じることから収集や輸送が困難であること、体表におびたしい寄生虫が付着すること、水槽内の環境に順応しにくいことが主な要因です。そこで当館は以前より、収集地や収集方法について調査と準備を重ね、8月にタチウオの収集、輸送、展示に挑戦をすることにしました。タチウオは、愛知県沿岸でも釣ることができますが、安全に採集して輸送する方法がなかったため、今回は静岡県東海大学海洋科学博物館の協力をいただき、駿河湾から収集することにしました。

8月24日23時、同博物館スタッフ2人と共に、当館スタッフ2名、その他関係者5名の総数9名を乗せた船は、静岡県由比漁港から出港しました。駿河湾を知り尽くした漁師の経験と、魚群探知機の情報を照らし合わせながら水深70m付近に餌をつけた釣り糸を垂らしました。釣り上げたタチウオは体に触れることなく水槽に収容します。この時に魚体に負担をかけることなく釣り針をはずす必要があるため、針先の返しをつぶした針を使います。誰かが釣り上げると声を掛け合い、他のスタッフが魚体に触れないよう慎重に収容水槽の上で針を外します。この時に船が揺れて魚体に触れてし

まったり、うまく針が外せなかったりしたタチウオは生存できないため持ち帰りません。しばらく当たりがなくなると何度もポイントを替えて、まだ暗い早朝4時までに計36尾を釣り上げることができました。

港に帰るとトラックの輸送水槽への移動です。輸送中に安定した水質を維持するための濾過循環システムを施した輸送水槽に、1尾ずつ丁寧に搬入します。この時も魚体に触れないよう、海水と共にプラスチックの桶に入れて移動します。今回は、初めてのタチウオのトラック輸送でしたので、約4時間にわたる走行中の水槽内の様子を確認するためにビデオカメラを設置したところ、振動やカーブの時も落ち着いている様子で、壁に体をぶつけることなく輸送できたことが確認できました。

次回は、寄生虫対策、環境馴致、餌付け、展示の実現についてご紹介します。

2022年ビオトープからの近況報告



ビオトープボランティアの皆さん

ビオトープがオープンして4年になります。当初はまだ小さかった樹木も、成長の良いものでは3mを超え大きなどんぐりが実ようになってきました。また、ボランティアさんによる、田んぼのもち米栽培は、これまでほとんど実らなかったり、実ってもカルガモのご飯になってしまうなど、なかなか餅つきができるだけの収穫量がありませんでした。しかし、今年は何とか一臼ぐらいつくことが出来そうです。感染症が収まっていれば1月にボランティアさんたちと一緒に餅つきをして、来館者に振舞う予定です。

タチウオ合同採集隊



釣り上げた瞬間



船上収容水槽



Event Information

イベント 2022.12月～2023.3月
インフォメーション

※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、中止や変更となる場合がございます。

TOPIX ミステリアスな ミズクラゲ

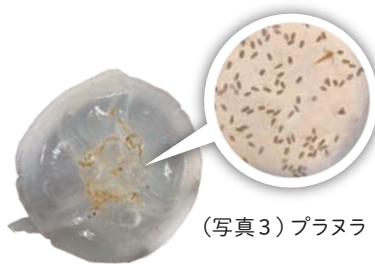


(写真1) ミズクラゲ

「水族館の癒し」として欠かせない人気者のクラゲ。クラゲと聞くと透明な姿で水に身を任せてゆらゆらと漂っている姿がイメージされる方が多いと思います。しかし、実際のところクラゲはいつでもそのような姿をしているわけではありません。多くの種類のクラゲはいろいろな姿に変態しながら皆さんの知っているクラゲへと成長します。クラゲの多くは生涯のほとんどをクラゲの形で生活してはいないのです。ではクラゲたちはいったいどんな姿で生活しているのでしょうか？クラゲの仲間は、サンゴやイソギンチャクと同じ刺胞動物です。刺胞動物の多くは岩などにくっついてポリプとして生活する時代があります。クラゲも多くの種類はポリプの時代があります。私たちになじみ深いミズクラゲを例にとると受精卵が「プラヌラ幼生」となります。

その後、海底の岩や貝殻などの上にくっついてポリプとなります。ポリプは無性生殖を繰り返して分裂しクローンを生み出し増えていきます。クローンとはつまり自分の分身を作るといことです。その後、水温変化などの刺激によりポリプは体

の上部をエフィラという小さなクラゲに変態します。1つのポリプから作られるエフィラの数にはクラゲの種類によって異なります。エフィラは一個体ずつ離れていき海の中を泳ぎ始めます。小さなエフィラはプランクトンをどんどん食べて短期間のうちに丸い形のクラゲに変化していきます。そしてまた新しい世代へバトンタッチします。



(写真2) ミズクラゲプラヌラ

(写真3) プラヌラ

水産館ではクラゲの展示を維持していくために、クラゲの飼育だけではなく、ポリプもバックヤードでたくさん増やして飼育しています。そのポリプを増やすために先日、ミズクラゲ（写真1）のプラヌラを採取することにしました。メスのクラゲからスポイトを使って採取していきます。こちらの写真（写真2）の茶色の部分にプラヌラがいっぱい入っています。採取したプラヌラを顕微鏡で確認（写真3）しました。とても小さいですが、元気よく泳ぎまわっていました。このプラヌラがポリプ（写真4）になりクラゲになるように育てていきます。ポリプの状態からクラゲになり展示できるサイズ（傘径約5cm）になるまで約4か月かかります。

実をいうと展示水槽でもよく観察するとたまにポリプがついていることがあります。よかったら探してみてください。これからも皆様に癒しと魅力をお伝えできるクラゲ水槽を目指してクラゲの飼育をがんばりたいと思います。



(写真4) ポリプ

当日申し込みで
参加できる

工
作
教
室



タコの尻作り

1.7 (土) 11:00～12:00

●定員：先着20名 ●5歳以上
●参加費 200円

ストーンペイント

2.25 (土) 10:30～

●定員：先着20名 ●参加費 200円

エッグペイント

3.25 (土) 10:30～

●定員：先着20名 ●参加費 200円

申し込み：水族館2階創作室前で当日受付をします。
※数に限りがありますので、お早めにお申し込みください。

写生大会

3年振りとなる水族館での写生大会。今年は10月1日（土）、2日（日）、15日（土）、16日（日）の4日間で開催いたしました。各日晴天に恵まれ過ぎたためか、これまでより少ない124名の参加者でした。しかし、提出された作品は力作ぞろいで審査員の皆さんを大変悩ませました。入賞された作品は、11月1日（火）から11月30日（水）まで水族館内スロープにて展示を行いました。



碧南海浜水族館
HEKINAN SEASIDE AQUARIUM

開館時間 9:00～17:00 最終入館 16:30

休館日：毎週月曜日 ※月曜日の場合は翌平日

〒447-0853 愛知県碧南市浜町2番地3

TEL ▶ 0566-48-3761

WEB ▶ <http://www.city.hekinan.lg.jp/aquarium/>

◎イベント等は、生き物の体調や天候によって内容の変更または中止する場合があります。御了承ください。
◎イベント参加には入館料が必要です。◎写真はイメージです。

開閉館日カレンダー

休館日：毎週月曜日 ※月曜日の場合は翌平日

12月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

1月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

3月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					